

# 稲城市議会 会派

# 起風会

き ふう かい

## 子育て世代、腹をくった脱サラ議員2名。二期目も皆様のご信任に誠心誠意応えます!!

### 中田中の二期目 1年間の総括

市議会議員は、議会で市に直接質疑ができるという恵まれた立場にあります。その機会を最大限活用して、住民福祉の向上を図るのが務めです。その機会を最大限活かすには、市に対して「いい質問」ができなければ話になりません。私が一期4年の経験から学んだ「コツ」は3つあります。

1. 自分の強みを活かすこと  
行政のプロである職員には付け焼刃の知識や経験では歯が立ちませんので、自分の得意分野で勝負します。私の場合はITコンサルタントや教育委員の経験を踏まえ、ICT活用や戦略策定、教育分野などとなります。
2. 自らの現場体験に基づくこと  
地域防災や地域コミュニティなど、自分の関心のあつ分野については、自らが地域活動の現場（自主防災組織や夏祭りなど）で汗をかき、そこで気づいた課題や問題意識を市に問いただします。
3. 外部からの学びを反映すること  
自分の過去や地元での経験だけでは、どうしても視野が狭くなります。積極的にセミナーや展示会などに足を運び、情報収集を行っています（昨年度は有料・無料合わせてセミナーを41日受講）。そこで得られた新しい知識を質問に取り込みます。

このような考え方で、6月議会では小中学校の教育用パソコンの更新、9月議会では「まち・ひと・しごと創成総合戦略」について、12月議会ではオープンデータの考え方、若葉台センター1地区や市立公園の交通安全・マナーについて、3月議会では自主防災組織の

自助・共助に対する意識改革、といった内容の質問をしてきました。



若葉台公園裏の竹やぶにて

若葉台公園北側の竹藪をボランティアの皆さんと整備しています。議員である前に地域の一人として活動しています。

### ◆議員番号13番、中田中 なかたあたる (46歳)

都立科学技術大(現 首都大)卒→日本HP、日本IBM。第2子誕生を機に自然・教育環境の充実した稲城市に惚れ込み転居。若葉台ワルツの杜在住。平成20年に稲城市教育委員、平成23年に稲城市議会議員初当選、現在2期目。昭和44年6月生まれB型、妻子(息子1娘1)愛犬1匹と同居。

【役職・資格等】稲城市議会議員(二期)・同 福祉文教委員会委員長・稲城市土地開発公社 評議員・稲城市青少年問題協議会 委員・青少年育成若葉台地区委員会 地区委員・若葉台体育振興会 会員・若葉台夏祭り実行委員会 委員・若葉台ワルツの杜自治会 役員・若葉台ワルツの杜管理組合法人理事長・若葉台ワルツの杜自主防災組織本部長・若葉台ワルツの杜防火管理者・日本防災士機構 認定防災士、他



www.ataru-nakata.com

### 市民の利便向上、不安払拭を着実に!

二期目当選から一年、4回の本会議と無数の委員会を経た春。これまでの提案に花が咲き、実を結びつつあります。



初当選時の平成23年第3回定例会で提案した「観光担当の設置」は、従来の経済課を経済観光課に変え、観



光担当課長を新規設置、この3月に稲城市観光基本計画が策定される迄に至りました。そして直近の4月23日には『いなぎ発信基地ペアテラス』がJR南武線稲城長沼駅高架下に開設されます。また、すでに工事が着工している(仮称)稲城消防出張所も平成29年4月の開所に向けて着々と工事が進み、併せて同地の平尾・坂浜・若葉台

を繋ぐ期待の多3・4・17号坂浜平尾線も、来たる5月には平尾側から稲城第二中学校に至るトンネル含む一部区間が通行可能となる予定です。平成26年第2回定例会で提案した矢野口の三沢川親水公園への救



置もこの度東京都の協力を得て先日実現致しました。課題は大から小まで数多くありますが、批判一辺倒でなく、現実的提案を出すことを



平尾古民家にて

本年は稲城青年会議所第41代理事長、消防団班長という成長の場をいただきました。地域活性化に、消防操法大会に、全力で取り組む所存です!

### ◆議員番号14番、鈴木誠 すずきまこと (33歳)

法政大卒→(株)リクルートメディアコミュニケーションズ(現RCO)。結婚を機に幼少期を過ごした平尾へ。平成23年稲城市議会議員初当選、現在2期目。昭和57年5月生、O型。妻子(娘3人)、親世帯、愛犬1匹と昔ながらの「大家族暮らし」を実践中。

【役職・資格等】稲城市議会議員(二期・現職最年少)・同 建設環境委員会委員・同 議会運営委員会委員・多摩川衛生組合議会議員・稲城市消防団第六分団班長・稲城青年会議所理事長・稲城市バドミントン連盟(市男子代表選手)・稲城まちかど楽友協会理事・杉山神社奉賛会理事・平尾宅地分譲自治会事務局長・平尾宅地分譲自主防災組織本部委員・日本防災士機構認定防災士・日本赤十字社 救急法救急員・関東総合通信局陸上特殊無線技士・法政経友会会員・林英臣政経塾塾生(第9期)、他



www.inagi.info



一年前にたくさんあった課題、その後はどうなっているの？

# 起風会に聞く

《インタビュアー：近藤信彰》

「二人とも再当選を果たし、起風会を再結成されました。前号が大きな反響でしたので、今号は紙面拡大し忌憚なく伺います。早速ですが3000署名を超える「iバス早期改善要望書」が市に提出されたとのことですが――

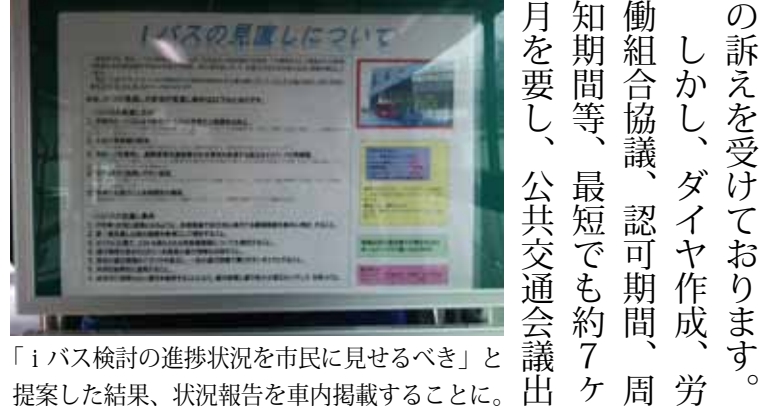
**鈴木**・まず、私共2名をご信任いただき再び議会へと送り出して下さった皆様に深い感謝を申し上げ、期待以上の働きを持ってお返しすることを約束します。

初出馬時からの目標である「世代循環型の街」を指して精進して参りますので、引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。

現在のiバスは平尾住民の一人としても、市役所や市立病院等へのアクセスが非常に悪く、左右循環を中心とした路線に変えるべきと考えています。現段階で稲城市地域公共交通会議に出ている新路線7案の内、循環路線型を推進しておりますし、実際、地域公共交通会議委員である自治会代表の皆様にもその方向で鋭意検討いただいています。

「早期」の実現に、無条件で賛同しないのですか――

**中田**・そうですね、私も若葉台在住の方から早期改善の訴えを受けております。



「iバス検討の進捗状況を市民に見せるべき」と提案した結果、状況報告を車内掲載することに。

しかし、ダイヤ作成、労働組合協議、認可期間、周知期間等、最短でも約7ヶ月を要し、公共交通会議出席委員の皆様には頑張って頂いて、何とか本年9月迄に新路線が決定されても平成29年4月開始になる計算。

「早期改善！」と恰好良く叫びたいのですが、私共はじめ市議会では右記のスケジュールを十二分に理解しています。如何に市民の最多理解を得られる路線を選べるか、今は慎重かつ着実に進める時という認識です。政治とは市民感情を無責任に煽るのではなく、同じ失敗を繰り返さないように尽くすことが重要です。

――同課題が政治的に利用されているということですか――

**鈴木**・いえ、早期改善自体は利用者の本音であり切実な願いです、そのようなことがあつてはなりません。

以前より一般質問や委員会において、区画整理が進み市内全体の交通網が整うならば、交通結節点を創出し「ハブ&スポーク式」のiバス路線にすべきと提案しております。是非とも多くの方々からご意見や名案を賜りつつ、更なる改善に向けて働きかけて参ります。

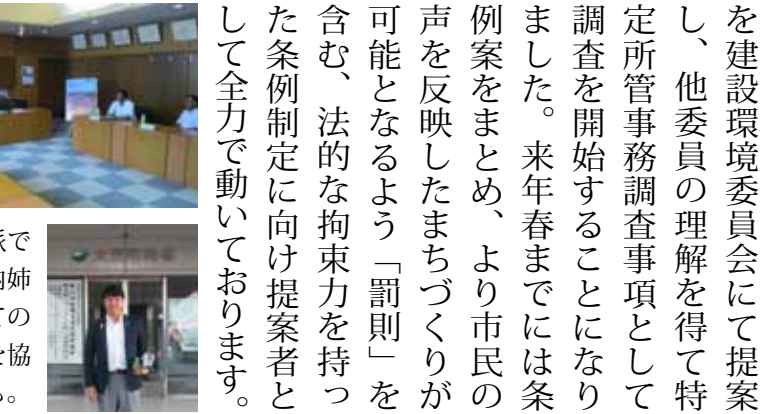
――前号一面で言及された長峰地区の空き地へ商業以外の企業が入る問題について、その後、議会はどのような動きをされましたか――

**鈴木**・前回選挙後直後の6月議会の一般質問で同問題に触れた議員は私共2名含めても全部で僅か3名、正直な話、拍子抜けしました。



私はお約束通り、都市計画マスタープランの改定を

継続して提案しています。そしてこのような問題を繰り返さないために「稲城市まちづくり条例の制定」を建設環境委員会にて提案し、他委員の理解を得て特定所管事務調査事項として調査を開始することになりました。来年春までには条例案をまとめ、より市民の声を反映したまちづくりが可能となるよう「罰則」を含む、法的な拘束力を持つた条例制定に向け提案者として全力で動いております。



派内姉妹市として協力を求め、市内の今後の発展を期待して、大空町を訪問し、姉妹都市としての協力を求めました。

――もう一つ話題の「米国加州フォスターシティとの姉妹都市提携」についてはどのように感じていますか――

**中田**・私は海外姉妹都市提携に賛成の立場です。若葉台地区に住んでいた方が総領事として現地に赴任していた際、姉妹都市提携の話が出たと聞きます。野沢温泉村との交流も前教育長の提案から、大空町との交流も同町出身の校長先生から始まったもの。過去の事例と比べても、最初のきっかけとして遜色ありません。

メカデザイナーズサミットやペアテラスなどの事業と同様に、海外姉妹都市提携についても、「稲城市の魅力を高める取り組み」の一つだと考えております。

平成28年度予算では提案を特定せず、市民会議の意見に合わせ柔軟に対応できる予算となりました。

――ところで、予算といえばこの3月に審議可決された平成28年度予算が史上2番目の大型予算なのですが――

**中田**・今は周辺自治体間競争に打ち勝ち、住民に選ばれる自治体を目指す必要があります。そのために健全財政を維持しつつ、地域の魅力を高める投資も行うバランス感覚が求められます。今予算では地域包括ケアシステム構築や待機児童対策、土地区画整理事業など重要施策にも適切に取り組みしていると考えています。

それらが反映された上で、経済情勢や社会情勢の変化、参議院選挙も含めた国政・都政の動きに合わせ「機動的」な市政運営に取り組みことを強く期待し、賛成しております。

――最後に、二期目となる起風会の目標・方針を聞かせて下さい――

**中田**・一期目同様、初心を忘れず、選挙向けパフォーマンスではなく、地に足をつけ、現場で汗かき、不正なく、批判と同時に提案をすることを念頭に置いて行動することを約束します。

地域に根ざした防災人として、子育て世代（社会を支える20〜40歳代）の一員として、責任を持って次世代のために良い街づくりに励み、「起風会」の名前に恥じぬよう、稲城市議会に風を起こし続けて参ります。

**鈴木**・一期目とは違い二期目は更なる結果を出していく必要があります。33歳で未だ最年少議員の立ち位置といえど、もう新人ではありませんので議会の中核となる心構えが必要、気合が入ります。「無風会」などと笑われぬよう、精進あるのみです。



一期目と同じく、議場最前列の議席番号13・14番を確保。二期目も互いの長所を活かし、市政発展に全力を尽くします！